

演題発表 (6 演題)





1 阿南病院

発表者：熊谷 英里

転倒転落シミュレーション研修 ～実践報告～

阿南病院 看護部 ◎熊谷 英里

看護部：松下 千春 医療技術部：宮島 洋美 大塩 誠司

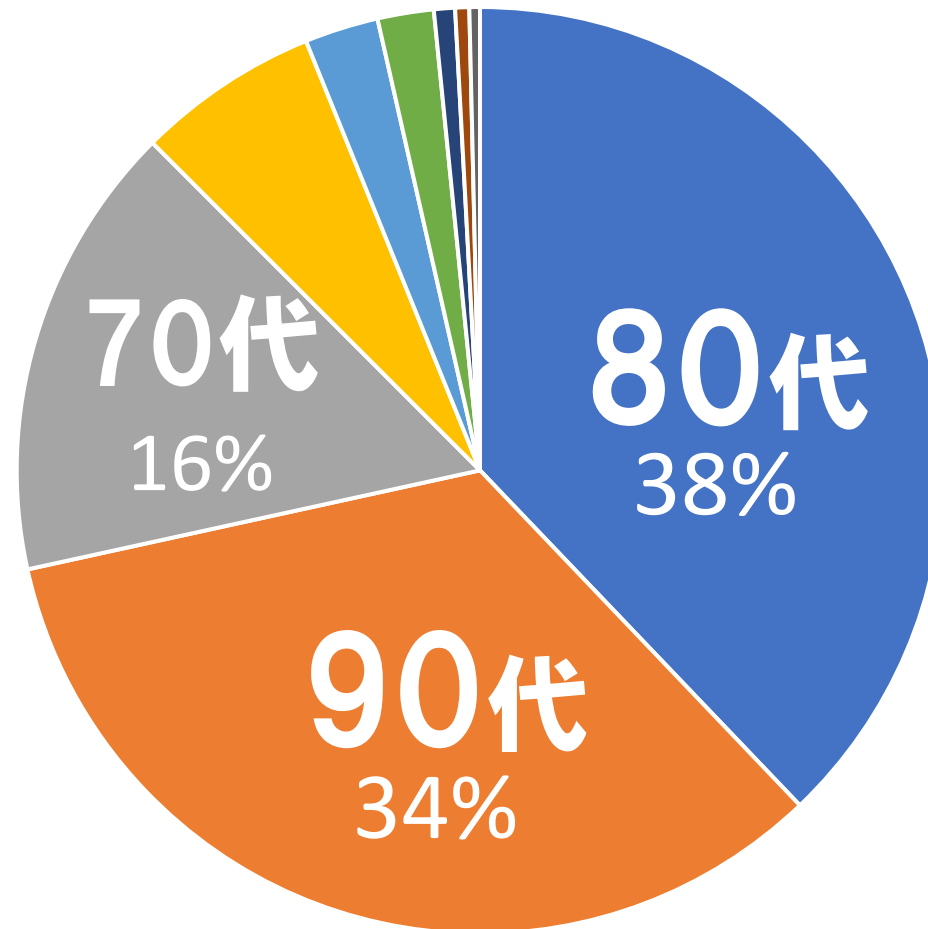
長野県医療従事者
シミュレーション教育指導者研究会

CO | 開示

発表者名: ©熊谷英里 松下 千春 宮島 洋美 大塩 誠司

演題発表に関連し、開示すべきCO | 関係
にある企業、法人又は団体はありません。

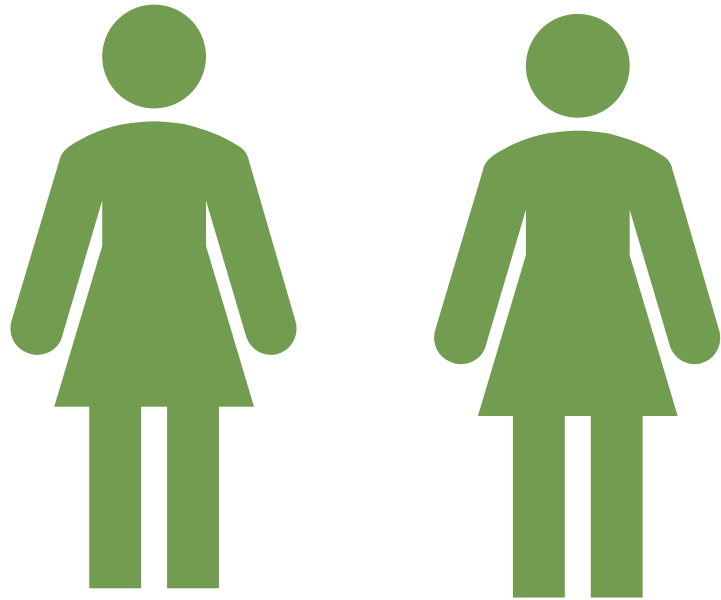
阿南病院 入院患者割合



■ 80代 ■ 90代 ■ 70代 ■ 60代 ■ 100代 ■ 50代 ■ 40代 ■ 30代 ■ 20代

図 1. 令和 4 年度入院患者割合

夜間 看護師 2 名



当直医 1 名



シナリオ

➤対象

令和4年度 新人看護師3名



学習目標

1. 転倒場面での患者の状態を観察しアセスメントできる
2. 当院の転倒フォーマットに沿った対応を習得する
3. SBARでの報告のしかたを習得する

事前学習、講義

➤事前学習

転倒発生時のフォーマット

高齢者の転倒

頭部打撲・骨折の観察ポイント

SBAR

➤当日の講義

高齢者の転倒時のリスク、

応援依頼と医師へのSBAR報告の仕方について講義

課題

➤ 患者像

A氏 85歳 女性

2日前より発熱・食欲低下 #腎盂腎炎 入院2日目

既往：脳梗塞

内服：ワーファリン、ゾルピデム（20時）

ADL：杖歩行 自立

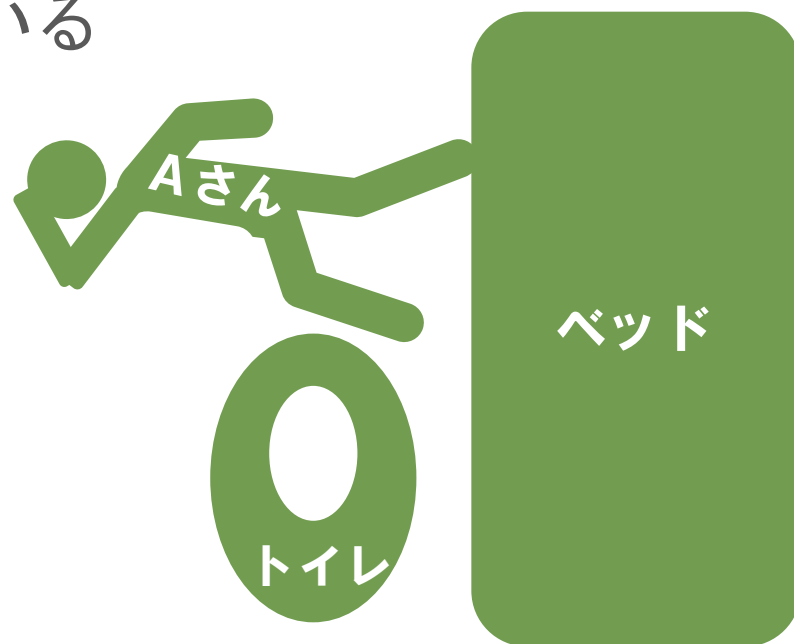
排泄：夜間頻尿がありポータブルトイレを使用している

22時の巡視時、物音がするため訪室

➤ 想定

右側頭部打撲

右大腿骨頸部、または転子部骨折



シナリオ

➤ 授業担当

シミュレーション委員 2名、患者役 1名

➤ 時間配分(1名につき)

ブリーフィング 10分

シミュレーション 5分

デブリーフィング 15分

➤ 1人目、2人目

転倒直後の観察、アセスメントを主とする

➤ 3人目

同じ患者条件で医師へのSBARを使った報告を主とする

シミュレーション時の様子

➤ 1人目(5分間)

- ・ 緊張思考停止
- ・ ファシリテーター介入
- ・ 患者に声をかけたところで5分経過

➤ 2人目(8分間)

- ・ 観察と応援者へ報告

➤ 3人目(8分間)

- ・ 観察～医師へSBARで報告

自己評価

表2 自己評価

1. 転倒発生時の患者の状態を観察しアセスメントできる	50% 1名, 60% 1名, 70% 1名
2. 転倒発生時の自分の動き、相手に依頼することを見出すことができる	60% 2名, 70% 1名
3. 転倒フォーマットに沿った対応の流れが理解できる	50% 1名, 55% 1名, 80% 1名
4. 転倒発生時の報告の流れについて理解できる	55% 2名, 70% 1名
5. 転倒発生時（頭部打撲・骨折等）注意したい病態が理解できる	50% 1名, 60% 2名
6. SBARをつかった状況の報告のしかたについて理解できる	60% 2名, 70% 1名

達成度 指標

75~100%	内容は理解でき他者へ指導できる
50~75%	内容は理解でき質問に答えられる
25~50%	内容は少し理解できたが復習が必要
0~25%	内容はあまり理解できず、再度研修が必要

学習者の感想

- 緊張して何をすればいいのか分からなくなる感覚を体感できた。
- どのように行動すればよかったのか、他者の様子を見て自分は何が苦手でどう改善すればいいかがわかり勉強になった。
- 体験式だったことで、頭は真っ白になったけど1番身につく形でよかった。
- 皆で意見を出し合って皆で改善・成長していける感じがしてよかった。

指導者の気づき

- 「転倒直後の患者対応」と「SBAR」 2つのシナリオを統合

フォーマットの習得か概念化か、迷う
学習目的をしばり進め方をすりあわせたほうがいい

- 1人目の過緊張状態により実質1人目が行えなかった

設定時間がタイトだった

指導者の課題

- 学習者が思考停止した原因として、
はじめの講義が堅くシナリオ開始前に緊張感があった

緊張がほぐれる会話や雰囲気づくり

- 学習する順番
学習者自分たちに決めてもらった

性格に配慮し指導者側で順番を決める

- シナリオの流れが止まっても続けられる心理状態の場合

**シナリオを一時中断し資料を見る、
他者からの意見をもらうため作戦会議を促す**

指導者の課題

- スタッフ3名では役割が重複し、進行に余裕がなかった

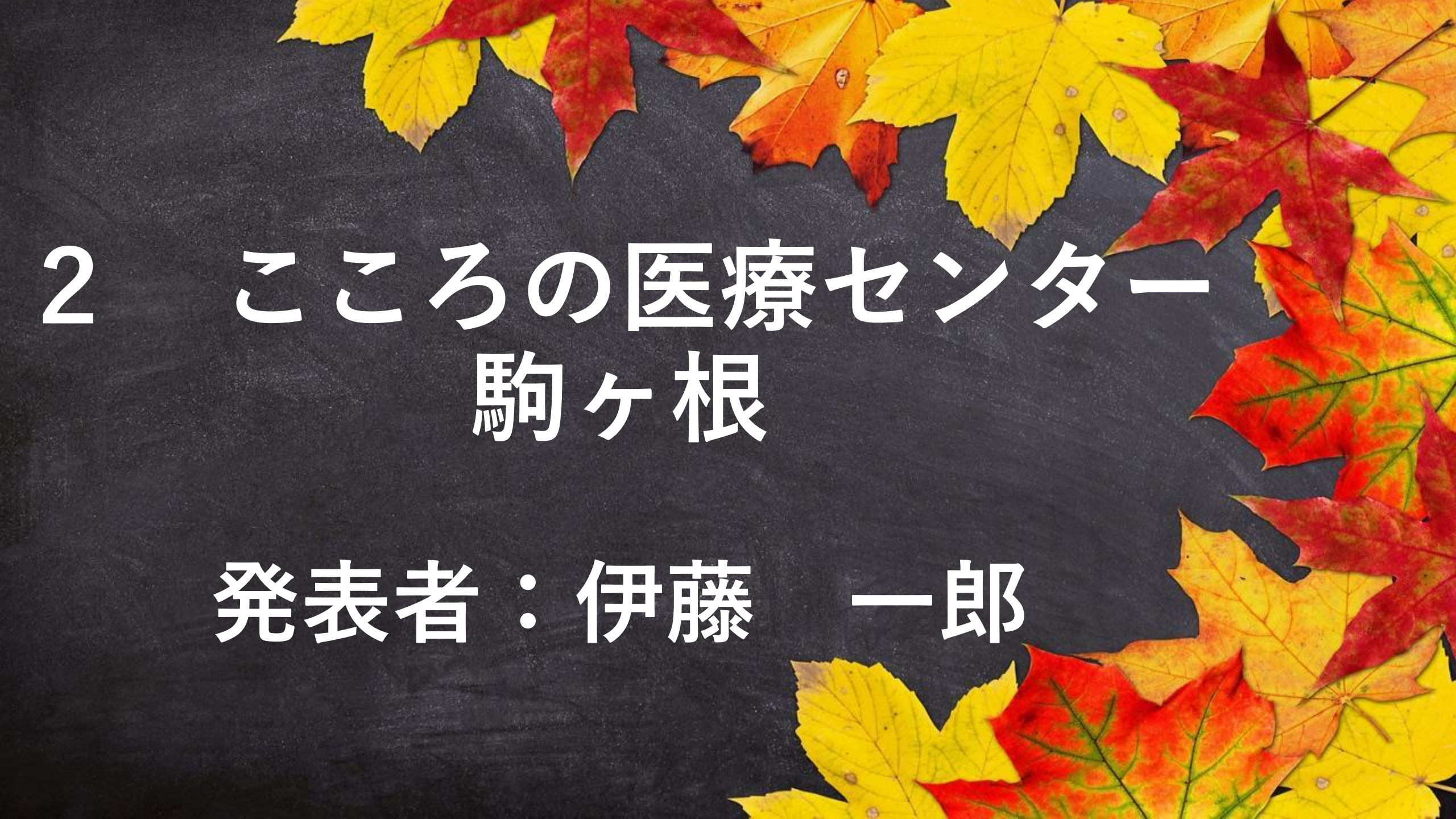
指導者側の力量不足

人員不足

阿南病院の課題

- シミュレーションスキルアップ研修受講者へ

ブリーフィング、ファシリテーション、デブリーフィングを
指導する



2 ところの医療センター 駒ヶ根

発表者：伊藤 一郎

興奮・攻撃性が高まり、チーム介入を要する患者対応のシミュレーション研修報告

こころの医療センター駒ヶ根

伊藤一郎 白鳥 香代 酒井史江 小池美佐子

長野県医療従事者シミュレーション教指導者研究会

COIの開示

発表者：◎伊藤一郎 白鳥香代 酒井史江 小池美佐子

演題発表者に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、法人または団体はありません

今回の研修の位置づけ

令和4年度から開始した「医療安全と患者の権利擁護体制確保」の活動の一環として
病棟・外来で研修を実施

用語の定義

【CVPPPとは】
包括的暴力防止プログラム
主に精神科医療、あるいはその関連領域の
施設等で起こる当事者の攻撃、あるいは暴
力を適切にケアするためのプログラム

用語の定義

**【ディエスカレーションとは】
心理的知見をもとに言語的・非言語的な
コミュニケーション技法によって怒りや衝動性、
攻撃性をやわらげ、患者を普段の穏やかな
状態にもどすこと**

シミュレーションチームの構成

シミュレーション教育研修委員 :	2名
スキルアップ講座受講者 :	3名
その他シミュレーション研修経験者 :	1名
リスクマネジメント部員 :	2名

B2病棟の紹介（総合治療病棟）

定数：33床

1日平均患者数：22.7名

1年以上の入院患者数：3名

処遇困難・衝動性の高い患者数：10名

看護師数：16名（女性：11名、男性：5名）

※ 1日平均患者数は令和4年度
その他の数字は令和5年9月のもの

暴力のインシデントレポート数

令和4年度

暴力のインシデントレポート数

院内全体 40件

B2病棟 21件

病棟の課題

1. 役割が不明確で
チームとしての対応ができなかった
2. 興奮している患者さんの気持ちに
寄り添うようなかわりができなかった

課題解決のための方法

- ・シナリオは最近の事例を病棟スタッフと一緒に作成
- ・アクションカードで役割の行動を提示
- ・前日に学習会を開催

アクションカードの役割

- ・リーダー役：「私が話を聞く役！」と宣言する、患者と交渉する
- ・サポート役：リーダーの後ろに目立たないように立つ、患者の動きや表情をとらえる
- ・環境調整役：攻撃対象を避難させる、応援スタッフの調整

シミュレーションの実際 1

参加人数：B2病棟看護師 6名

全体時間：60分

場所：大会議室

**課題：挨拶しようとした面会者に無視された
と思った患者がドアを蹴った**

シミュレーションの実際 2

希望者がリーダーになった。怒っている患者に落ち着いてかかわり気持ちを確認された患者が落ち着くと振り返りを促した



患者は怒りが再燃した。サポート役が近くにいるのを嫌がった

シミュレーションの実際 3

リーダー役は「一人で大丈夫。」
サポート役は「離れていいかも。」と思った
が...



お互いに伝えられなかった...

考察 1

・リーダー役は手上げで決まった
前日の学習会とアクションカードで役割を提示し学習者のモチベーションがあがった

・リーダー役は患者の怒りの感情を認められた
研修会と学習会からの学びが活用できた

考察 2

・リーダー役は感情を認めただけでは患者の行動を肯定すると考えて振り返りを促した
まだ患者は穏やかな状況に戻っておらず怒りが再燃した

患者の気持ちに寄り添えれば怒りは収まるシナリオだったので、怒りの再燃は想定外であり、振り返りのタイミングがむずかしい

シミュレーションチームの今後の課題

意思疎通が図れるチームとしてのかかわり

CVPPPの理念の実践に向けたシミュレーションチームとしての活動



•ご清聴ありがとうございました。



3 こども病院

発表者：高田 春香

**看護部新人研修における
シミュレーションを用いた実践報告**

長野県立こども病院

看護師 高田春香 山口志帆

長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会
COI開示

演題発表に関連し開示すべきCOI関連にある
企業・法人又は団体はありません

新人研修における 電話対応シミュレーション導入背景

電話対応シミュレーション 2020年度から実施（今年4回目の開催）

導入のきっかけ

スマートフォンの普及により電話に出るという経験が減少

電話対応シミュレーション開催以前新人が
病棟で電話に出られないことが課題だった

2020年度 4月

こども病院 看護部内の異動者が多かったため
異動者の指導に並行し新人研修も実施

2020年度以前5日間で行われていた新人研修が2週間に延長

新人研修の内容が見直され電話対応シミュレーションを追加

活動内容

概要

対象者：令和5年度新規採用者（新卒者）17名

目的：職場での電話対応を習得する

目標：1.講義を通し職場での電話対応の注意点が理解できる
2.演習を通し職場での電話対応ができる

内容：職場での電話対応の注意点と実践

- 演習：正しい電話対応の理解と実践
- 講師4名（シミュレーション研修を修了者）

2つの場面を取り上げ
講師がロールプレイを実施

〈場面①〉

- ナースステーションで電話が鳴っている
- その場にはリーダーナースと新人ナースしかいない
- リーダーは家族対応中であるため新人ナースが電話対応を行う

〈場面②〉

- 患者の処置中に医師のPHSが鳴る
- 医師は手が離せないため新人ナースが代わりに電話対応を行う

実践：グループに分かれての演習

3つのグループに分かれ

「患者の家族への電話対応」をテーマに
ロールプレイとグループワークの演習を行った
演習後、各グループで出た意見や感想を全体で共有

研修終了後アンケート結果

研修終了後に対象者へ配布した5段階評価アンケート

(5 よく理解できた、4 概ね理解できた、3 普通

2 やや理解できないところがあった、1 全く理解できなかった)

「研修に参加したことで電話対応の注意点が理解できた」

「研修で学んだ内容を職場で活かせると思う」

上記の質問に概ね4～5の回答を得た

電話対応シミュレーションを 終えての講師の気づき①

先に全体でデモンストレーションとして
講師がシミュレーションを用いて電話対応を実演



理解が深まりグループに分かれても対象者同士で
スムーズに演習を実施できた

電話対応という課題において
参加者一人一人が声を出す機会を得ることで
演習後のグループワークにおいて活発な意見交換に繋がった

講師の気づき②

グループに1人ずつ講師がファシリテーターとして参加

デブリーフィングでは
対象者自身に考えさせる発問をすることを意識し
対象者が主体となるように介入を行った

質問には講師自身の実体験を交えながら
具体的に回答するよう心掛けた

シミュレーション後の講師の課題

グループによって講師の介入の仕方に差があり
制限時間内で意見がまとまらなかった場面もあった



講師自身もファシリテーターとしての経験を積み
スキルアップしていくことが大切

まとめ

看護の臨床現場において「患者-医療者」というシナリオで用いられることの多いシミュレーション教育だが今回のように「看護師-医療者」というシナリオでも活用していくことで看護の質の向上にも繋がっていくと考える

良好なコミュニケーションを安全な医療に繋げるため
日常的なコミュニケーションエラーの振り返りに
今後もシミュレーション教育を活用していきたい

参考文献

阿部 幸恵.「看護のためのシミュレーション教育はじめの
一歩ワークブック 第2版」.2019,p.87

ご清聴ありがとうございました



4 伊那中央病院

発表者：北原 佐津貴

多職種が共に学ぶシミュレーションを目指して

コメディカルスタッフの学習ニーズを把握するための現状調査



長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会

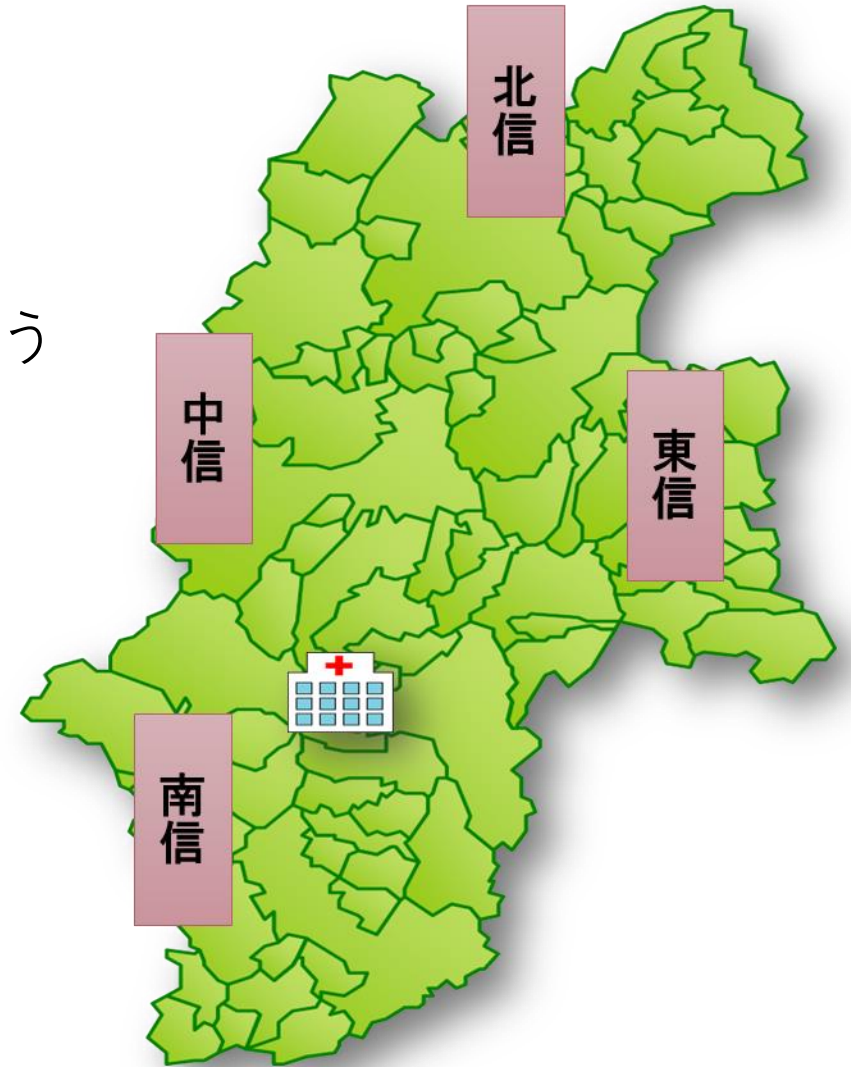
COI開示

発表者名：◎北原 佐津貴、武井 美佐緒

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業、法人又は団体はありません。

当院の概要

- ✓ 長野県上伊那地域の基幹総合病院
- ✓ 救急医療、高度専門医療など急性期診療を担う
- ✓ 病床数 394床
- ✓ 職員数 1016名（R4.1.1現在）



はじめに

- 効率的で効果的な医療を提供するためには、**多職種連携協働（以下、IPW）**が重要であり、これを実現するために**多職種連携教育（以下、IPE）**の必要性が認識されている。
- A病院にはメディカルシミュレーションセンターが設置されており、職種を超えた人材育成に活用できる資源がある。
- 研修医や看護職といった特定の職種を対象としたシミュレーション教育は行われているが、多職種を対象としたシミュレーションは一部の学習会に限られている。



これらの資源を活用し、多職種で共に学ぶシミュレーション教育を実施することでIPWを推進し、より質の高い医療を提供できる人材の育成につなげたいと考えた。



研究目的

- A病院のコメディカルスタッフの学習ニーズを明らかにし、多職種で共に学ぶシミュレーション教育について検討する。

用語の定義

□ コメディカルスタッフ

本研究においては、A病院に従事する医療専門職のうち、薬剤部、診療技術部に所属する医療専門職とする。職種は、**薬剤師、臨床検査技師、リハビリテーション技師、放射線技師、臨床工学技士、管理栄養士**を含む。

□ 多職種シミュレーション教育

学習者に2つ以上の医療専門職を含み、多職種が共に学びあう多職種連携教育（IPE）を目的としたシミュレーション教育とする。

研究方法

- 研究デザイン：量的記述的研究
- 研究対象者：A病院に勤務するコメディカルスタッフ138名のうち、本研究への協力に同意したもの
- データ収集期間：2023年8月～9月
- データ収集方法：研究者独自の無記名自記式の質問紙を作成し、質問紙調査には、Google formを使用した
- データ分析方法：収集したデータは、任意の整理番号を付与して分析した。単純集計により記述統計を算出し、表やグラフを作成した。

調査項目

□対象者の属性（職種・経験年数）

□学習ニーズについて

- ① 自分の職種に必要な基本的知識
- ② 自分の職種に必要な専門的知識・技術
- ③ 職種の中で居力して仕事を進めていくために必要なリーダーシップやメンバーシップ
- ④ 多職種で連携資するために必要なコミュニケーション技術
- ⑤ 患者さんとの関係性を構築するためのコミュニケーション技術
- ⑥ 職場での学生指導、スタッフ教育に必要な知識・技術
- ⑦ 職場で必要な管理に関わる知識・技術
- ⑧ 職場の業務を整理・改善する方法
- ⑨ 職場の問題を解決するために必要な知識・技術
- ⑩ 医療現場において必要な感染予防の方法
- ⑪ 医療現場において必要な倫理的配慮
- ⑫ 患者急変時の対応

□シミュレーション研修について（参加経験の有無・参加希望の有無）

□希望する研修内容（自由記述）

倫理的配慮

調査目的、倫理的配慮、研究者名および問い合わせ先等を明記した研究協力依頼文を作成し、文書にて説明した。

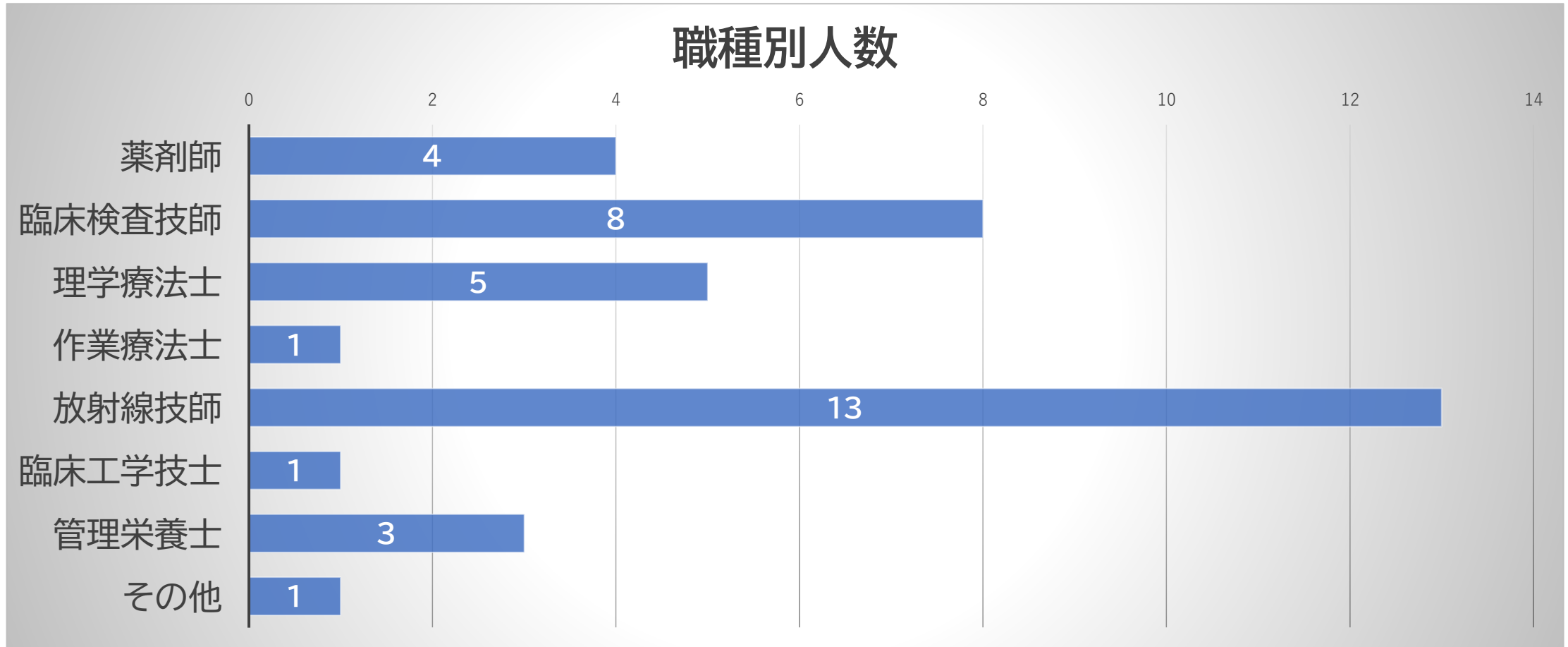
質問紙の冒頭で、研究協力への同意について問う質問を設け、「研究協力に同意する」との回答をもって、研究協力への同意とした。

Google formを使用して無記名で回答してもらうことで、筆跡等で個人が特定できないように、また、他者に研究協力したか否かを知られないよう配慮した。返信された回答はMicrosoft Excelにて、任意の回答番号を付与し、匿名性を保って管理した。

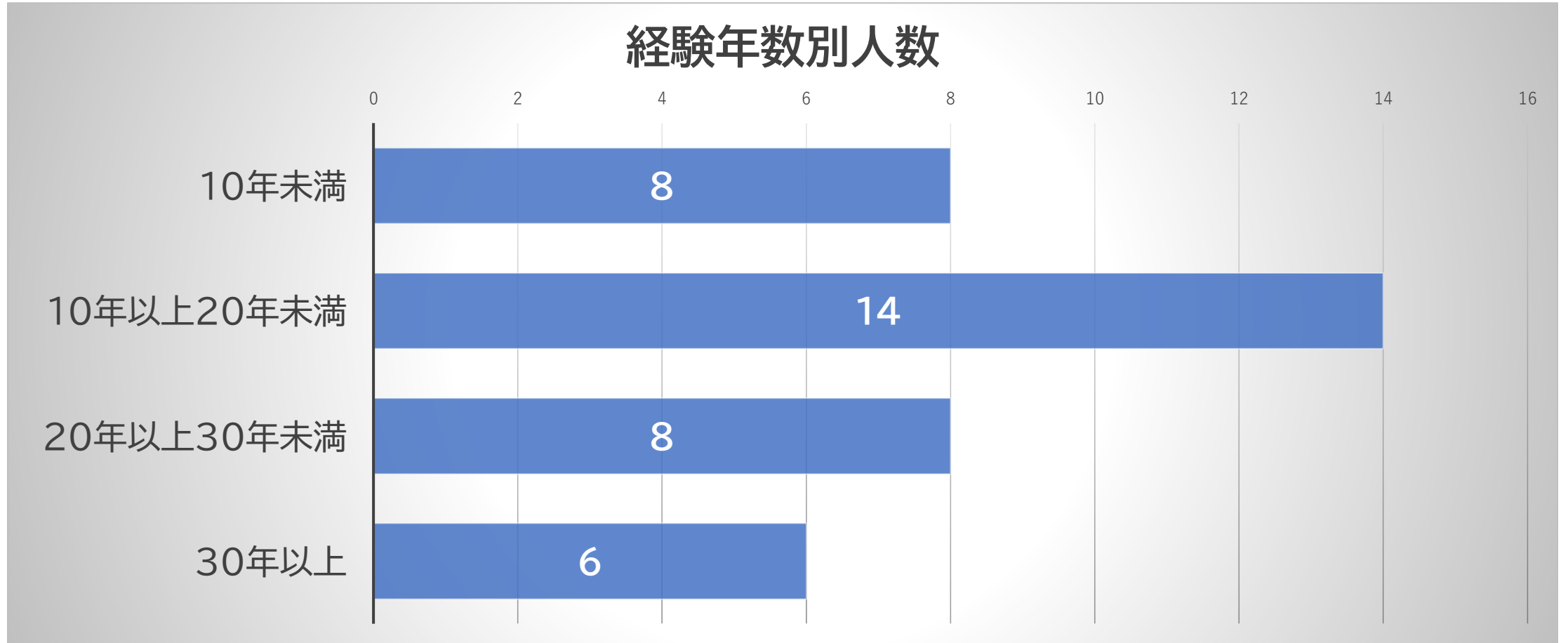
調査実施前に、伊那中央病院倫理委員会の倫理審査を受けて承認を得た。（承認番号23-11）

結果①

配布数138名 回答者数36名 回答率26%



結果①

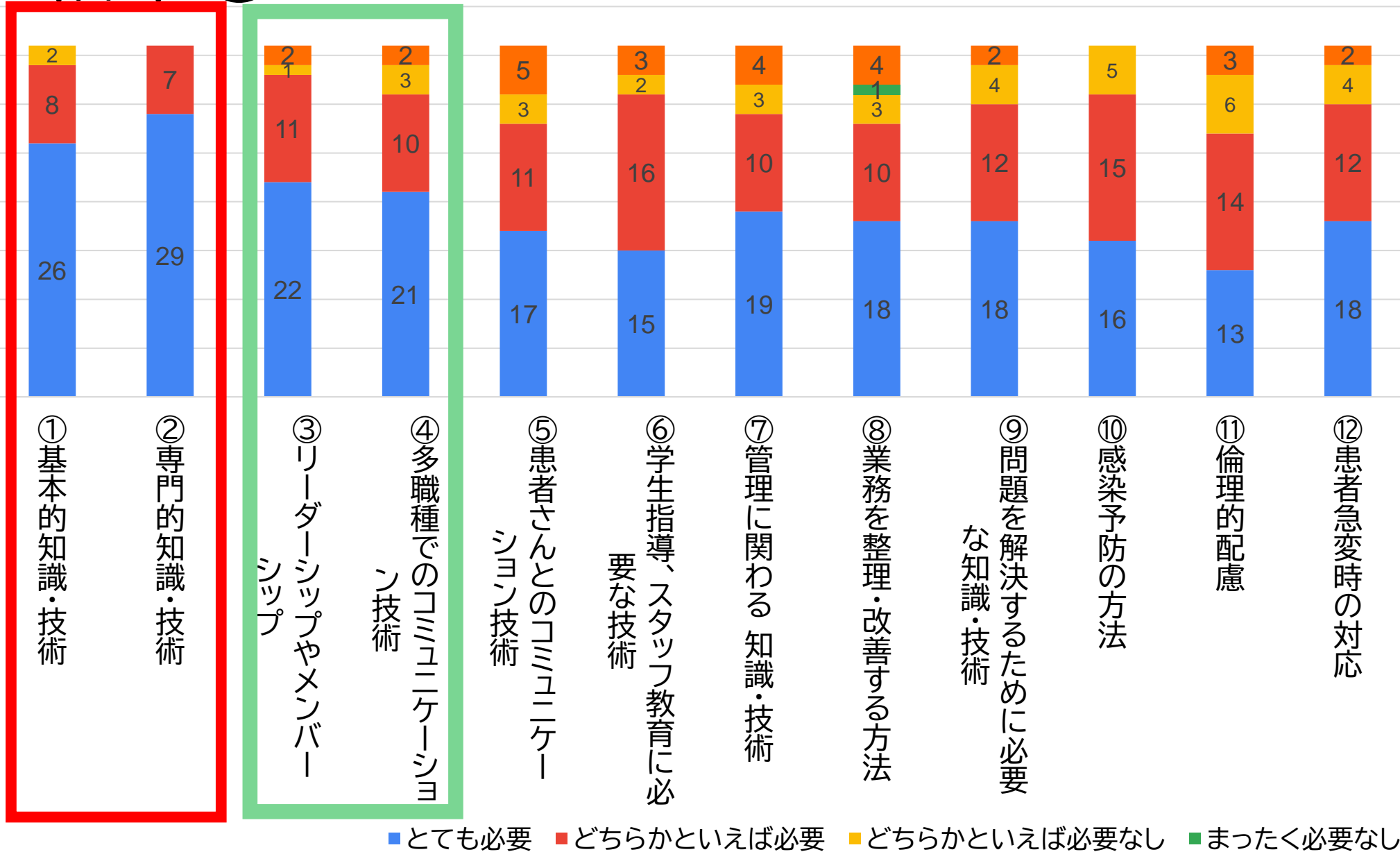


考察①

- 予想よりも回答者数が少なく職種ごとや経験年数ごとの傾向は分析できなかった
- 多職種を対象としたニーズ調査は院内で初めての取り組みであり、シミュレーション教育や多職種連携教育への関心の低さが考えられる

結果②

学習ニーズ



結果②

最も学習の必要性を感じるもの1つだけ選択

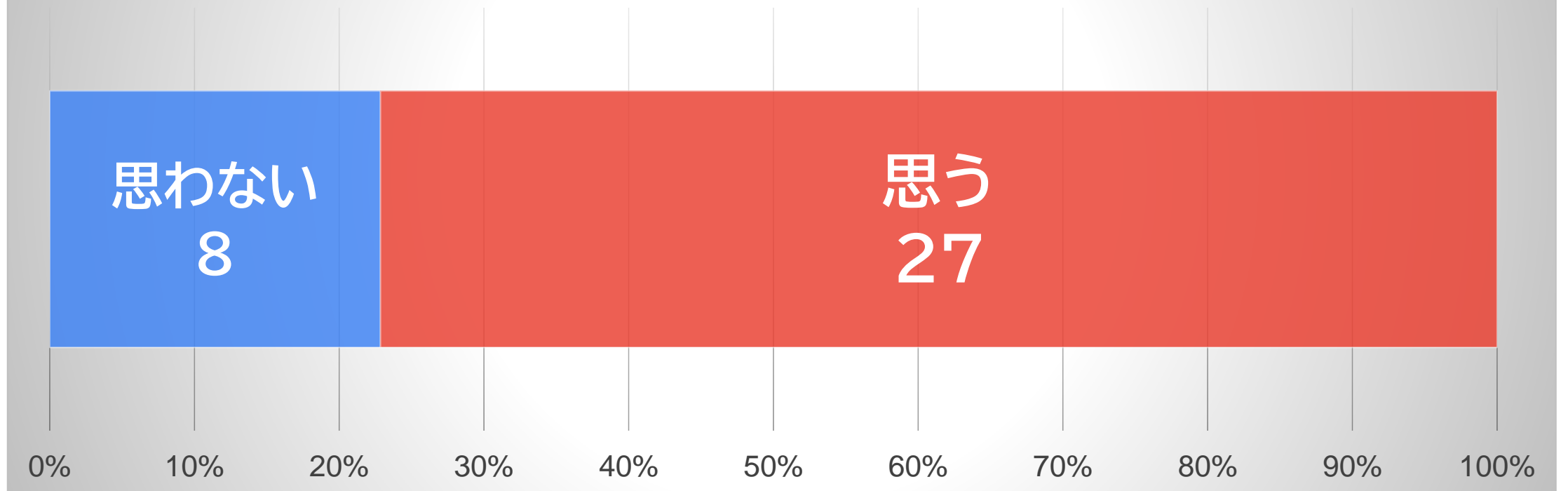
学習ニーズ 項目	経験年数				合計
	10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上	
自分の職種に必要な専門的知識・技術	5	9	2	2	18
職場の業務を整理・改善する方法	0	3	1	1	5
自分の仕事をするために必要な基本的知識・技術	1	0	2	1	4
多職種で連携するために必要なコミュニケーション技術	0	0	1	2	3
職場の問題を解決するために必要な知識・技術	1	1	0	0	2
職種の中で協力して仕事を進めていくために必要なリーダーシップ ^o やメンバーシップ ^o	1	0	0	0	1
患者さんとの関係性を構築するためのコミュニケーション技術	0	1	0	0	1
職場での学生指導、スタッフ教育に必要な技術	0	0	1	0	1
職場で必要な管理に関わる 知識・技術	0	0	1	0	1

考察②

- 全体の傾向としては、それぞれの専門分野に関する知識・技術といったテクニカルスキルへのニーズが高い
- 多職種で連携するためのコミュニケーション技術、リーダーシップ、メンバーシップなどノンテクニカルスキルへのニーズもある
- 職場の業務を整理・改善する方法のような、組織の一員として求められる役割へのニーズもある

結果③

自身の職種に関連したシミュレーション研修があったら参加したいですか？



結果③

参加してみたいシミュレーション研修 自由記載

- ✓ 静脈路確保
- ✓ 肺や心臓の聴診など
- ✓ チーム医療、救急医療、感染対策など
- ✓ 急変時の対応（大量出血患者への対応、アナフィラキシー対応）
- ✓ カテ室業務でのアセスメントスキルや対応スキル
- ✓ 現場で活かせる物
- ✓ より効率的に業務を遂行するために必要な技能を習得するための研修
- ✓ 業務改善、経営改善のディスカッション
- ✓ 人材教育に関する事



考察③

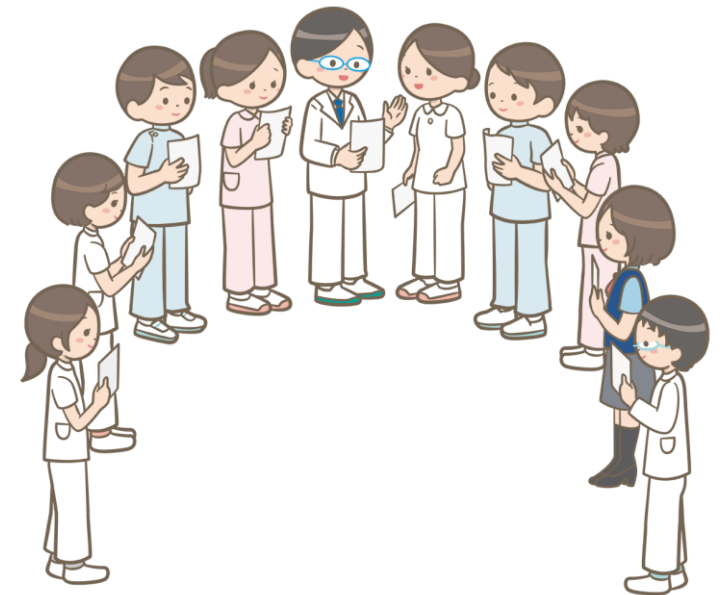
- シミュレーション研修に参加したことがないという割合が高いが、シミュレーション研修に参加してみたいという割合も高く、今回の回答者はシミュレーション研修への関心がある
- これまで看護職を中心に行われてきたタスクトレーニングや、シナリオシミュレーションは多職種にもニーズがある
- 急変対応の学習ニーズがあるが、職種により希望する場面が異なっており、職種によるニーズの違いに細かく目を向けていく必要がある

結論

- 回答率は低かったが、コメディカルの学習ニーズが明らかになった
- それぞれの専門分野に関する知識・技術といったテクニカルスキルだけでなく、コミュニケーション技術、リーダーシップ、メンバーシップなどのノンテクニカルスキル、職場の業務を整理・改善する方法のような、組織の一員として求められる役割へのニーズもあることがわかった
- 看護職を中心に行われてきたタスクトレーニングや、シナリオシミュレーションは多職種にもニーズがある
- 各職種の立場に応じた急変対応への学習ニーズがある

今後の展望

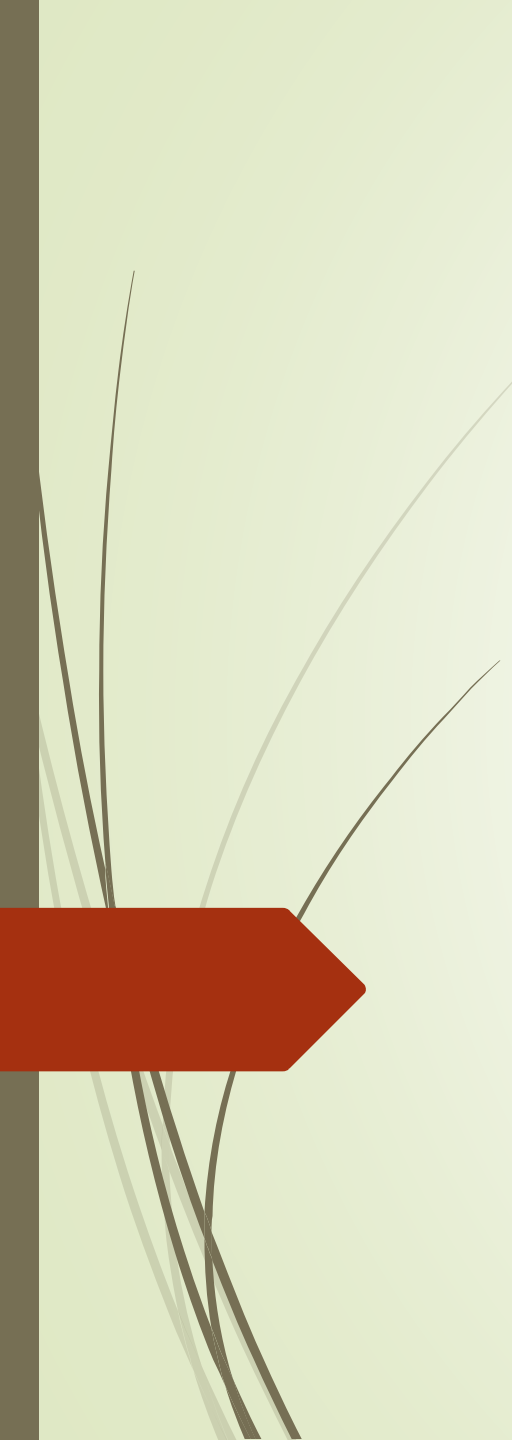
- シミュレーション教育や多職種連携教育に関心を持ってもらえるよう、シミュレーションセンターの活動を積極的に発信していく
- 今回の調査で明らかとなったコメディカルの学習ニーズのなかには、多職種で共に学べるもの、共に学ぶことでより学習効果が期待できるものが含まれており、調査結果をもとに今後多職種で共に学べる研修を企画・実施していく
- 多職種協働で学べる場を提供し、お互いの理解を深めることで現場での多職種連携に繋げていく





5 木曾病院

発表者：増田 硬三



木曽病院における シミュレーション教育への 多職種参加に向けた調査

長野県立病院機構 長野県立木曽病院

○増田 硬三 柳澤 俊史 下島 里佳

長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会
COI 開示

発表者名: ◎増田 硬三、柳澤 俊史、下島 里佳

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、法人又は団体はありません。



はじめに

シミュレーション教育は患者と学習者の安全を担保したうえで実践的な学びを得られる教育方法である。

木曽病院では現在、看護部で組織的なシミュレーション教育を行っているが、多職種が参加した形ではBLS研修を除いて実施されていない。

働き方改革がいわれる中で業務負担を最低限とすべく、既存の研修等のなかで、今後、多職種がシミュレーション教育にかかわっていく方法を考えたい。



■ 調査目的

現在行われている行事・研修のなかで、
シミュレーション教育に利用可能なもの
がないか確認する

■ 調査対象


- ・ 過去の木曽病院の行事、研修の記録
- ・ 各部署の新任職員等研修手順書



■ 結果

調査対象の資料にみられた
シミュレーション教育の対象となりうる行事・研修 1

- ・ 防災訓練など法令の定めのある訓練等
- ・ BLS研修
- ・ 医療安全管理委員会の実施する研修
- ・ 感染対策委員会の実施する研修



■ 結果

調査対象の資料にみられた

シミュレーション教育の対象となりうる行事・研修 2

- ・ 部署内の職員教育プログラム
- ・ 長野県立病院機構本部研修センター主催の研修への参加

【技術指導マニュアル】 受付・採血業務

【到達目標】

検査オーダーに応じて採血管を準備することができ、適正な検査を実施するための採血技術を習得する。また、検体測定・結果報告が迅速に実施できるために、受付業務を習得する。

【到達までの期間】

2ヶ月

【研修方法】

① 見学

担当者：実地指導者

研修内容：事前にマニュアルを読んでおき、指導者から説明後、実際の場面を見学する
準備物品、実施手順、注意事項を確認する

② 実施

担当者：実地指導者

研修内容：マニュアルに沿って実施する

③ 評価

担当者とともに業務チェックシートを用いて評価する

手 順	指導時の留意点
<p>詳細は、マニュアルを参照する。</p> <p>1.採血</p> <p>① 採血室の準備をする。</p> <p>② 患者が自動受付機で受付を行うと採血管が発行される。 採尿がある場合は先に採尿してもらう。 造影検査がある場合は、左腕から採血を行う。</p> <p>③ 採血台で呼び出しを行う。氏名、生年月日、アルコール使用の可否、迷走神経反射の有無などの確認を行い、採血を実施する。 採血後、圧迫止血をしてもらい、必要に応じてバンドなどで止血する。</p> <p>④ 採取検体を検査室に提出する。</p> <p>2.受付</p> <p>① 検体を受け取り、到着確認をする。検査オーダーと採取容器が一致しない場合は、各科に問い合わせる。</p> <p>② 各部門へ搬送し、検査を実施する。</p> <p>③ 到着確認後、分注ラベルが発行される検査については、指定の方法で処理する。</p> <p>④ 外注検査の検体処理（遠心及び保管）をする。 ・オーダー有りの場合：到着確認し、分注ラベルを容器に貼付し、必要検体量を検査案内に沿って適切に保管する。 ・依頼書によるオーダーの場合：伝票の記載内容を確認し、指定のラベルに記載の上貼付し、所定の方法により適切に保管する。</p>	<p>見守りながら、不十分な点をサポートする。</p> <p>1.準備</p> <p>・必要物品がそろっているか確認する。 ・ラベルのみ発行され、自動貼付されないものについては、適切な採血管を選択し、貼付する。 ・外注の採血量の確認、紙依頼がファイルに入っていないかなどもに注意する。</p> <p>・気分が悪い場合はベッドに横になる。 ・緊急事態の場合は、応援または叫ぶ。</p> <p>2.受付</p> <p>・細菌検査の検体は、到着確認後所収する。 ・病理検査の検体は病理検査室へ搬送する。 ・未検査・未到着リストを適宜確認する。</p> <p>・分注ラベルに記載されている検体4種や畜尿量は、手書きで記載する。</p> <p>・依頼書の記載もれがないかどうか確認する。</p>

② 実施

担当者：実地指導者

研修内容：マニュアルに沿って実施する

③ 評価

担当者とともに業務チェックシートを用いて評価する

手 順	指導時の留意点
<p>詳細は、マニュアルを参照する。</p> <p>1.採血</p> <p>① 採血室の準備をする。</p> <p>② 患者が自動受付機で受付を行うと採血管が発行される。 採尿がある場合は先に採尿してもらう。 造影検査がある場合は、左腕から採血を行う。</p> <p>③ 採血台で呼び出しを行う。氏名、生年月日、</p>	<p>見守りながら、不十分な点をサポートする。</p> <p>1.準備</p> <p>・必要物品がそろっているか確認する。 ・ラベルのみ発行され、自動貼付されないものについては、適切な採血管を選択し、貼付する。 ・外注の採血量の確認、紙依頼がファイルに入っていないかなどもに注意する。</p>




■ 参考

院内のシミュレーション研修受講者数（令和3年度）

医 師： 2名

看護師： 23名

技術職： 8名



考察

- 防災訓練（災害対応、停電、サイバー攻撃など）への対応を確認する方法としてシミュレーションは活用されている。
- 医療安全研修等はコロナ下で映像教材の使用が中心となっている。研修を動画撮影し、部署単位で映像を視聴しグループディスカッション行うことが考えられる。
- 各部署で行われている新人等の教育において、タスクトレーニング、アルゴリズムトレーニングが行われている。



まとめ

- 各部署の新任者等の教育手順にシミュレーション教育の応用が可能な内容がみられる。ルーティンの業務に組み込めれば業務負担も抑えられ、継続性や指導者のスキル維持にも役立つ。
- 多くのシミュレーション研修を受講したスタッフがいる。その知識をいかし、多職種でシミュレーション教育に取り組む仕組みを検討することが必要。



6 信州医療センター

発表者：三上 香緒里

令和5年度

長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会

看護部シミュレーション委員会 発足後5年目の現状と課題

長野県立病院機構県立信州医療センター
看護部 三上 香緒里

長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会

COI開示

発表者： 三上 香緒里

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、法人又は団体はありません。

はじめに

- ・近年、多様化する看護の場に対応できる看護師が求められている。

- ・知識、技術、態度を統合的に学べるシミュレーション教育への期待が高まっている。

看護部シミュレーション委員会発足の経緯

看護教育理念のもと

H31年度 シミュレーション基礎教育修了者による
シミュレーションチーム発足
(看護部教育委員会の下部組織)

用語の定義

シミュレーション基礎教育修了者

機構本部研修センター企画のハワイ大学シミュレーション指導者研修、FunSimJまたはそれに相当する教育

看護部シミュレーション委員会発足の経緯

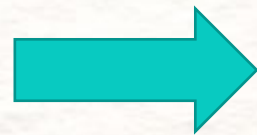
シミュレーションチームの役割

- シミュレーション学習の普及とシナリオの作成
- 看護部教育委員会主催のシミュレーション学習への協力

「各部署でもシミュレーション学習を取り入れていきたい！」

令和2年

シミュレーションチーム



シミュレーション委員会

看護部シミュレーション委員会発足の経緯

シミュレーション委員になるには・・・

- シミュレーション基礎教育を受けた者
- 各部署の師長の推薦



看護部シミュレーション委員会の役割

- シミュレーション学習の普及
- シナリオの作成、学習会の実施
- 各部署でシミュレーション学習を行える人材の育成

今年度の委員会の活動内容

- 「シミュレーションの方法を学ぼう」研修開催
- B病棟のシミュレーション学習への協力「アナフィラキシーの対応」
- 新人看護師研修「救急看護」シミュレーションへの協力
- 機構開催「シミュレーションスキルアップシリーズ」への参加（新規委員4名）
- 機構開催「シナリオブラッシュアップ講座」への参加（昨年度スキルアップに参加した委員等3名）

今後・・・

- 3年目看護師のリーダーシップ研修
- C病棟のシミュレーション学習のシナリオ作成に協力

「シミュレーションの方法を学ぼう」の様子



簡単なシミュレーションに関する講義のあと、実際に使っているシナリオの目標を隠して、アウトラインシート、デブリーフィングガイドからグループワークで目標を考えてもらう。

その後、そのシナリオを学習者として体験してもらう。（この際のシミュレーションを委員が担当している。）

B病棟のシミュレーション学習会の様子

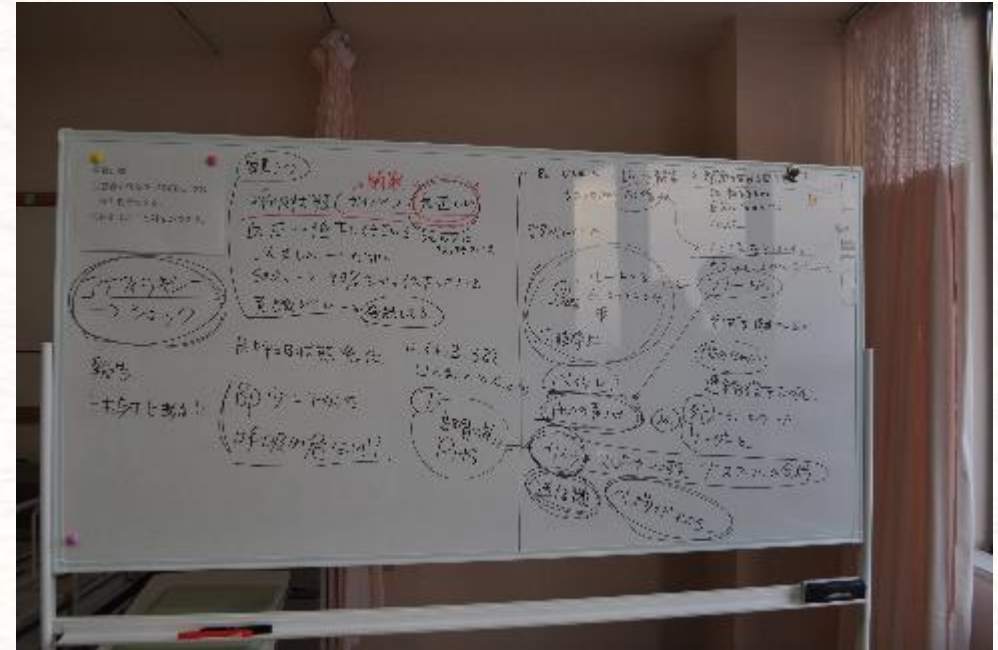


実際にアナフィラキシー事例があり、対応がうまくできなかつたことからシミュレーションを行うことになった。

昨年度まで委員だった看護師と現委員が中心にシナリオを作成し、シミュレーション委員会で修正を行った。

当日のシミュレーションには委員が協力し、参加している。

B病棟のシミュレーション学習会の様子



B病棟は感染症病棟であったため、ほかの病棟とは違う特殊な環境であった。

実際の病棟でシミュレーションを行うことで看護師一人ひとりの対応だけでなく環境などに起因する問題にも気が付けるよう配慮した。

そのため、デブリーフィングでは、患者への対応のほかに人員配置や物品についても検討した。

委員の教育体制

1年目：「シミュレーションの方法を学ぼう」に参加
「スキルアップシリーズ」（機構研修センター企画）に参加
教育委員会企画の研修にブリーフィング、応援看護師役などから参加

2年目：「シナリオブラッシュアップ講座」に参加
教育委員会企画の研修にファシリテーター、デブリーフャーで参加

その他の委員（3年目以降、基礎研修修了者など）：
「シナリオブラッシュアップ講座」と一緒に参加
それぞれの研修の際、ファシリテーターやデブリーフャーへのフィードバック

昨年度からの課題

- 毎年、委員会メンバーの半数が入れ替わってしまう。
- 育成した委員をどのように活用していくのか。

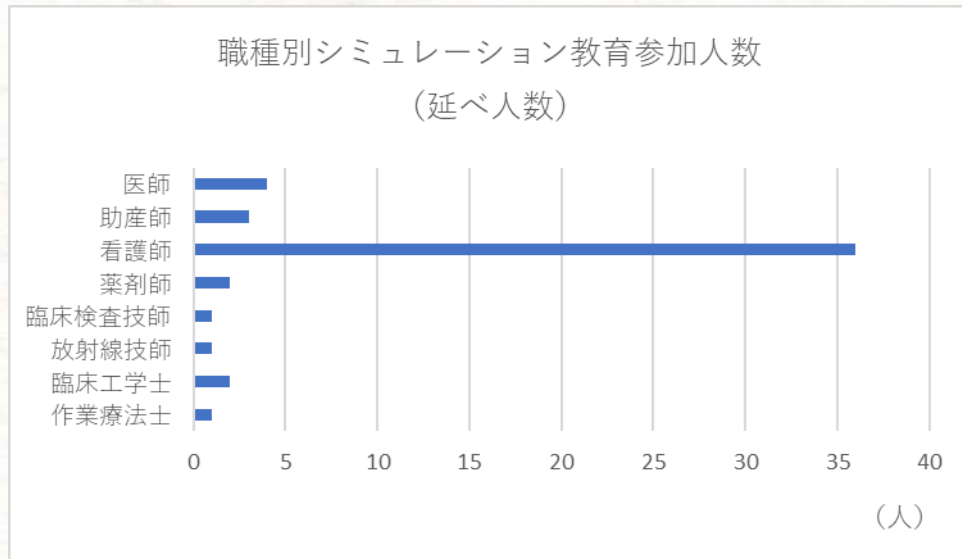
今年度は

各部署からシミュレーション学習会の要望があり、現委員、元委員が中心になり学習会を行ったり、シナリオの見直しができるようになった。



育成した元委員が各部署で役割を發揮できている。

今後の課題



シミュレーション委員会は看護部の委員会のため助産師、看護師で構成されている。



看護師向けのシナリオしか作成できない。

シミュレーション基礎教育を受講した多職種スタッフの活動の場がない。



多職種の専門性を活かした、シナリオの作成やシミュレーションを行える環境を作っていく。

長野県立病院機構における シミュレーション教育への歩み

長野県立病院機構本部研修センター



本部研修センター

• 基本理念

県民が求める「安心して質の高い医療」を提供できる医療人の育成に努めます。

• 基本方針

1. 地域医療および専門医療を提供できる医療人を育成します。
2. 県立5病院の特色を活かした研修体制を構築します。
3. 社会が求める医療人を育成できる指導者を養成します。
4. 多職種連携教育によりチーム医療を推進します。
5. キャリアアップを図る研修システムを構築し、広く地域の医療人育成に貢献します。

生きる力、学びその先へ（新学習指導要領:2020～）

確かな学力

基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力

生きる力

豊かな人間性

自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性

健康・体力

たくましく生きるための健康や体力

学んだことを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性など



実際の社会や生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、三つの力をバランスよく育みます。

(新学習指導要領:2020～)

学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善



※高校教育については、従来の事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

医療従事者および学生等の教育 1

【初期研修医】

プレICLS研修



【医学生】

指導医による講義



気道管理研修



BLS研修



医療従事者および学生等の教育 2

・ 県内養護学校

医療的ケア・緊急時対応訓練



・ 新人看護師技術研修

・ 看護師フィジカルアセスメント研修



・ 信州木曾看護専門学校

救命救急特別講座



・ 保健師専門研修

採血・在宅医療技術編

医療従事者および学生等の教育 3

・ 薬剤師

薬学生病院実習
フィジカルアセスメント



2年目薬剤師他病院体験研修




・ 中学校BLS



阿南病院による下伊那地区
中学校BLS講習

シミュレーション教育指導者の研修

研修名		難易度	研修内容
スキルアップシリーズ①②③ (2016～)		易  難	基礎的知識の習得とシナリオ作成
機構職員派遣事業	シミュレーション基盤型教育セミナー (Fun Sim J) (2016～)		シミュレーション教育指導の基本
	シミュレーション教育指導者研修(iSIM-J) (2022)		FunSim-Jにおいて修得したスキルや知識の向上
シナリオブラッシュアップ講座 (2020～)			事前作成したシナリオの評価と改善

長野県立病院機構

シミュレーション教育指導者委員会（2019～）

【目的】

シミュレーション教育に携わる職員が連携し、
教育指導者の育成及び研修の充実を図ること

- シミュレーション教育指導者の連携
- 研修支援（スキルアップファシリテータ等）
- シナリオ情報共有
- 研究会との連携、協力


長野県医療従事者

シミュレーション教育指導者研究会（2022～）

【目的】

シミュレーション教育を活用した研修の実施と研究に取り組み、長野県内医療従事者の技術水準向上に貢献すること

- ・シミュレーション教育指導者研究会開催
- ・シミュレーション教育指導者研究会の企画、立案



今後とも研究会の運営に関しまして
各病院等のご理解とご協力をお願いいたします。